

取扱いの趣旨

根尖性歯周炎（P e r）は、根管から歯根の周囲組織に細菌感染が拡大している状態であり、この状態で、根管の感染歯質が除去できない抜髄を行うことは適切でないことから、当該病名で抜髄の算定は原則として認められない。

支払基金が公表している取扱いの全文

【処置】 《令和3年2月22日》

103 抜髄

○ 取扱い

原則として、「根尖性歯周炎（P e r）」病名で、抜髄の算定を認めない。

○ 取扱いを定めた理由

根尖性歯周炎は、根管から歯根の周囲組織に細菌感染が拡大している状態であり、この状態で、根管の感染歯質が除去できない抜髄を行うことは適切でないと考えられる。

グラフの見方

1 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）

抜髄を算定している目視対象レセプト1万件当たり、条件（P e r に対して抜髄を算定）に該当するレセプト件数

2 折れ線グラフ

該当レセプトのうち、抜髄が査定・返戻となった割合

【棒グラフ凡例】 審査の結果

査定	返戻	: 取扱いどおり
請求どおり 職員等	請求どおり 審査委員	: 検証が必要

審査結果の概要

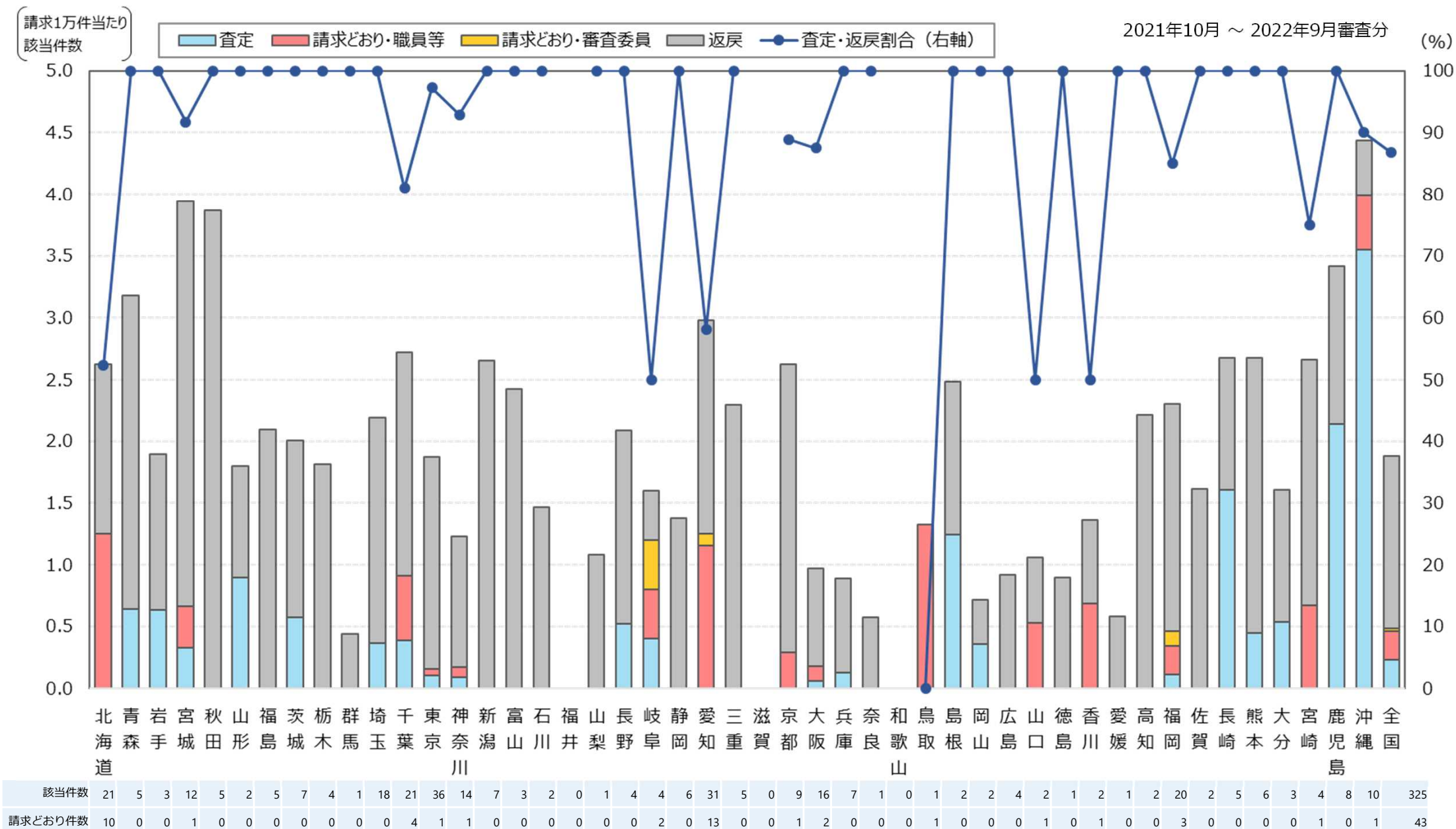
- 全国の査定・返戻割合 86.77%
- 検証を必要とする都道府県 6

検証観点	検証を要する都道府県	備考
査定・返戻割合が低い都道府県	岐阜、北海道、愛知、千葉、福岡、大阪	査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員等	北海道、愛知、千葉、岐阜、福岡、大阪	対象1万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員	岐阜、福岡、愛知	//

該当件数（全国）	P e r に対して抜髄を算定	325件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	282件
検証を必要とする審査	請求どおり	43件

事例103 「根尖性歯周炎（P e r）」に対する抜髄の取扱い

【認めない事例】



【該当件数】 P e r に対して抜髄を算定しているレプト件数